

開発途上国・新興国をフィールドにした 実践教育によるグローバル人材育成 -「タフで実践的な人材」の育成-

鳥取大学国際交流センター副センター長 竹田 洋志

TAKEDA Hiroshi

キーワード： 開発途上国・新興国、グローバル人材、実践教育

1. グローバル人材育成推進事業

本事業では、豊かなグローバルマインドを根底として、グローバル人間力、グローバルリテラシー、グローバルコミュニケーション力をグローバル基礎能力とするグローバルマネジメント能力とタフで健全な心身を有し、深い専門知識(理論)と高い技術力(実践力)を体系的に修得することにより、進展しつつあるグローバル社会の中核として活躍できる人材の育成を目指している。

グローバル人材育成のための教育カリキュラムとして、全学生を対象としたグローバル基礎教育を教養教育で実施するほか、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の開発途上国や新興国をフィールドとした海外実践教育を異文化、多言語、異環境下で実施する。さらに、本構想の着実な実施のため、全学的な実施体制としてグローバル人材育成推進室を設置した。

グローバル教育に関する授業科目を「グローバル教育科目群」として体系的に位置づけ、教養教育の中で学生が基本的な国際通用性を身につけるための「グローバル教育基礎科目群」と、専門教育の中で高い国際通用性を専門知識や技術と共に修得するための「グローバル教育強化科目群」に分け、グローバル人間力、グローバルリテラシー、グローバルコミュニケーション力の3つの教育を体系的に実施し、「タフで実践力のあるグローバル人材」を育成する。

本学が目指す「グローバル人材像」では、グロ



ーバルマネジメント能力を最も重要な能力として明確にし、その習得を目指すこととしている。グローバルマネジメント能力は、グローバル人間力、グローバルリテラシー及びグローバルコミュニケーション力を統合的かつ総合的に兼ね備えた能力であり、「専門知識と実践力を根底として、開発途上国、新興国等のグローバル社会の中核として国際業務を円滑に遂行できる能力」としている。本構想では、先ず海外に行くことにより、①気づく(Awareness)、②自ら変わる(Change)、③行動する(Trial)というプロセス(ACT サイクル)を繰り返すことにより、学生自身が主体的に取り組み、経験と気づきの中で自らの成長を実感しながら能力をスパイラルアップさせることを目指す。

全学年の学生を対象に、グローバルコミュニケーション能力の向上を目標とし、4年間一貫のグローバル基礎教育として英語教育プログラムを実施し、さらに高度な英語能力の育成を目標とするグローバル強化コースにおいて英語による専門教育を強化し、実践する。また、短期語学留学や海外実践教育プログラムを開発途上国や新興国で実施する他、学内においては、既に設置している「語学シャワー室」の充実を図り、英語運用能力の強化のみならず、TOEIC や TOEFL 対策や中国語、韓国語、スペイン語などの能力検定試験対策を実施するなど、全学的な観点から語学強化の取組を実施する。

可能な学部やカリキュラムからクォーター制に移行し、全学的に柔軟で体系的なカリキュラムの構成により、学生がグローバル教育に係る科目群を履修し易くするとともに、教員が学生の海外派遣プログラムの引率や研修などに積極的に参加できるような教育体制のグローバル化を図る。

「鳥取大学グローバル人材育成推進室」を組織し、各部局と連携した海外留学プログラムの開発や入学試験の在り方、広報活動、カリキュラム開発、キャリア支援及び危機管理など、日本人学生の留学を促進するために必要な環境について一元的かつ全学的に検討する。特に、初学年の学生から海外派遣と共に留学、グローバル化、国際化等のグローバルマインドセットアップ教育やグローバル基礎教育など、将来の留学につながる授業を導入し、留学の意義やその効果が自らの将来を切り拓く大きな力になることを明確に伝えることにより留学意欲の醸成を図る。また、産業界との連携や広報活動及び就職に関するセミナーや研修会を実施し、グローバル人材として能力を発揮できる企業とのマッチングを図るなど、きめ細かい就職支援を行う。

■サミットレクチャー

本事業の一環として、学生の国際感覚を向上させるために、グローバルに活躍する人材を招いて講義を行っている。特に、本学がターゲットとする諸国の駐日大使を中心に招いてサミットレクチャーを実施している。これまでに、ケニア、エチオピア、ウガンダ、メキシコ各国の駐日大使に加え、海外において企業のトップを務めた日本人、本学協定機関の学長、所長等を招いた。サミットレクチャーは、全学生・教職員を対象としているが、英語の授業からの振替、また国際交流センターが開講する科目の受講生には原則として受講を義務付けている。

■台湾英語研修

【概要】

本プログラムは、「グローバル人材育成推進事業」の一環として行われ、3週間のネイティブ講師陣による英語4技能（読む、書く、聞く、話す）の集中トレーニングで、自ら英語で発信する能力の強化を目指している。大学入学後最初に行く海外英語研修という位置付けで、グローバル人材を目指す学生の第一歩となる。

【目的】

学内公募により選考した20名の学生を本学の学術交流協定締結校である台湾・銘傳大学に派遣し、同大学が提供する英語プログラムを受講し、実践的な英語運用能力を磨く。

【特徴】

銘傳大学はアジアの大学で初めてアメリカ中部の英語教育の認定を取得した充実のカリキュラムを持っている。本研修では、プレースメントテストにより2クラスに分け、きめ細かい指導を行っている。ネイティブの講師陣により授業はすべて英語で行われ、銘傳大学の学生がTA（Teaching Assistant）として参加し、学生同士の交流が図れるのも本研修の特徴である。3週間の研修期間中に2回のCultural Tourがあり、台湾の歴史、文化に触れることができる。

2. メキシコ海外実践教育プログラム

本学では、「知と実践の融合」を教育研究理念と定め、「持続性ある生存社会の構築に向けて」を国際戦略として、実践力の強化と教育の国際化の推進により、国際社会で活躍できる人材の育成に努めてきた。

「メキシコ海外実践教育カリキュラム」は、本学の教育研究理念及び国際戦略を具体化すると共に、国際的な大学間連携と全学的な協力体制のもと、実施するものである。国際的な観点から問題意識を持ち、国際感覚と課題解決能力に優れた国際人の育成を目指す本学独自の教育プログラムであり、2006年度より実施している。本事業では、メキシコ西部カリフォルニア半島南端、南バハカリフォルニア州ラパス市に位置する、南バハカリフォルニア自治大学（UABCS）と、メキシコ北西部生物学研究センター（CIBNOR）に、全学から募集、選抜した約20名の学生を約3ヶ月間派遣し、本学をはじめ、UABCS、CIBNORの教員・研究者により英語で講義・調査実習を実施する。

さらに、本プログラムでは、メキシコの地域性を重視したカリキュラムとするため、フィールドワーク及び現地学生との共学を重視すると共に、中南米に関する授業科目をカリキュラムに取り入れるなど、現地の地域社会との関わりを深めるプログラムとなっている。

【目的】

海外の教育研究機関と連携しながら、語学と講義及びフィールドワークを融合させた教育実践カリキュラムを実施し、国際的に活躍できる人材の育成を図る。

【実施科目】

語学(2単位)：スペイン語

講義(各1単位)：自然・生存環境概論、国際コミュニケーション、中南米社会経済事情、日墨比較文化、地域開発と保全、乾燥地科学概論

フィールドワーク(各5単位)：

海外フィールドワークⅠ(自然・環境系)、

- ・ラパス湾沿岸30kmにわたる浅海底の地形・堆積物調査
～浅海底の縦断形と堆積物の粒度分布～
- ・水環境評価
～ラパス湾における水質・熱環境・波の評価～
- ・南バハカリフォルニアにおける自然と人間の関係
～樹木の更新に与える人間活動の影響～
- ・生態環境実習
～コルテス海の自然保護区とエコツーリズム～
- ・乾燥地における医療と健康
～ラパスにおける水と健康問題～

海外フィールドワークⅡ(社会・経済系)

- ・比較文化：メキシコと日本
～文化、人々、そして社会の違いの地域調査～
- ・Biodiversity of Baja California Peninsula workshop
- ・国際開発協力プロジェクトによる農業・農村開発の成果・課題・可能性
～鳥取大学/JICA/CIBNORの協力による「乾燥地域における農業及び農村振興」プロジェクトの経験を分析する～

3. 海外安全マネジメント

本学では、ラテンアメリカやアフリカなどの開発途上国・新興国をターゲットとして学生派遣を実施しているため、欧米への派遣と比較してより詳細なリスク管理・危機管理が必要である。そのため、学生の海外派遣にあたっては、プログラム担当者または国際交流センター教員が実施する危機管理セミナーを受講することとしている。国際交流センターによるセミナーは夏休み前、春休み前を中心に年に8回程度実施している。1回のセミナーは90分～180分程度である。本セミナーを発展させ、2013年度後期からは「海外安全教育」の名称で半期の講義として開講することとなった(2014年度より「海外安全マネジメント」と改称)。前述の国際交流センター教員に加えて、医学部教員、リスク管理会社およびメンタルヘルス会社からも講師を招き、各方面からの専門的な指導を行っている。2014年度からは、前後期ともそれぞれ週に2回の開講とすると共に集中講義でも開講し、より多くの学生が受講しやすい体制とする予定であり、将来的には本学の海外派遣プログラムに参加する学生は、この講義の受講を必修とする方向で検討予定である。

本講義の内容は、下記に示す項目(抜粋)について詳細を説明した後、原則として授業の最後に演習を取入れている。

講義内容	項目(抜粋)
リスク管理・危機管理とは？	なぜリスク管理・危機管理が必要なのか。どんなことが必要なのかを考える。
留学とは？留学の意義	現地の大学事情
派遣先大学(機関)についての情報解説	位置、歴史、学部構成、学生数、特色的な研究、教育についての演習
派遣先国についての情報収集	海外安全情報(外務省)、FOTRH(厚生労働省検疫所)、各国大使館からの情報を基にした派遣先国の情報収集についての演習
渡航方法についての情報収集	航空券、ビザ、パスポートの取得、予防接種、現地の交通、宿舎等についての情報収集の演習
海外で安全に過ごすには	生命・身体・財産に関するリスク
各国状況	政治、経済、貿易、文化、地域事情
各国状況(治安、経済)	発展状況、当該国で今後必要とされる知識、技能、技術等
麻薬・薬物	麻薬の危険性、各国の麻薬関係の刑罰、日本の状況等
医療関係	感染症一般
医療関係(メンタル)	海外派遣におけるメンタルヘルス
海外旅行保険	保険と海外における事故の現状

4. 語学強化コース

本コースは、留学を希望する学生に対して、上級レベルのクラスを集中的に提供するために、2003年10月に英語・中国語・韓国語でスタートした。英語は毎日、中国語と韓国語は隔日で開講し、日本語に加えて、英語、中国語または韓国語を話せるトリリンガルの育成を目指した。少人数でネイティブによる授業を実施し、学生が受講しやすいように放課後の時間帯に授業を開講した。下記に開講当時の時間割を示す。

開講当時(2003年10月)の時間割

	月	火	水	木	金
16:30-17:30	英語	韓国語	英語	韓国語	英語
17:35-18:35	中国語	英語	中国語	英語	

その後、スペイン語、フランスを追加するとともに、昼休みの会話クラスを開講するほか、英語の授業の内容も充実させ、後述する語学シャワー室において学んだ英語をすぐに使える環境を整えた。時間割は年度によって多少異なるが、2013年度後期は下記の通りである。

英語

	月	火	水	木	金
12:10-12:50	Lunch Time English (会話)				
14:45-16:15		Intermediate			
16:30-17:30	Speaking	Presentation	TOEFL Intermediate	TOEIC Intermediate	Business English
17:35-18:35			TOEFL Advanced	TOEIC Advanced	Multimedia

中国語

16:30-17:30	中級		初級 (継続)		初級・未修
17:30-18:30	未修		検定3, 4級		

スペイン語

12:00-13:00	Basic				Basic
-------------	-------	--	--	--	-------

フランス語

16:30-17:30			実践		
17:00-18:00	初・中級				

韓国語

11:00-11:50			中級		
12:05-12:55	初級				
13:00-13:50					初級

語学シャワー室



語学シャワー室には、大型モニターが3台、液晶プロジェクタが1台（100インチスクリーン）が設置されており、各種情報提供、またプレゼンテーションの練習などへの活用が可能である。このモニターは、前述の台湾・銘傳大学との遠隔講義システムの一部であり、語学シャワー室では、日本にいな

がらにして、銘傳大学教員の講義を受講することが可能となっている。この設備は、同大学へ留学中の本学学生との面談に利用することも想定されている。

